

中野区教育委員会会議録 平成22年第17回定例会

○開会日 平成22年5月28日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午後7時00分

○閉 会 午後8時42分

○出席委員(5名)

| | |
|-----------------|---------|
| 中野区教育委員会委員長 | 飛鳥馬 健 次 |
| 中野区教育委員会委員長職務代理 | 山 田 正 興 |
| 中野区教育委員会委員 | 高 木 明 郎 |
| 中野区教育委員会委員 | 大 島 やよい |
| 中野区教育委員会教育長 | 田 辺 裕 子 |

○出席した事務局職員(7名)

| | |
|-------------|---------|
| 教育委員会事務局次長 | 合 川 昭 |
| 副参事(教育経営担当) | 白 土 純 |
| 副参事(学校再編担当) | 吉 村 恒 治 |
| 副参事(学校教育担当) | 古 屋 勉 |
| 指導室長 | 喜 名 朝 博 |
| 副参事(生涯学習担当) | 飯 塚 太 郎 |
| 中央図書館長(統括) | 小谷松 弘 市 |

○担当書記

| | |
|--------|---------|
| 教育経営分野 | 落 合 麻理子 |
| 教育経営分野 | 仲 谷 陽 兵 |

○会議録署名委員

| | |
|-----|---------|
| 委員長 | 飛鳥馬 健 次 |
| 委 員 | 山 田 正 興 |

○傍聴者数 12人

○議事日程

[報告事項]

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 5 / 15・16 第十一中学校同窓会総会及び第十一中学校・第六中学校同窓会合同懇親会について
- ・ 5 / 18 中野区立中学校PTA連合会総会・懇親会について
- ・ 5 / 20 平成22年度「なかの生涯学習大学、ことぶき大学院」開講式について
- ・ 5 / 20 薬物乱用防止推進中野地区協議会定期総会について
- ・ 5 / 21 中野区立小学校PTA連合会総会・懇親会について
- ・ 5 / 21 谷戸小学校すこやか委員会について
- ・ 5 / 22 東京都医師会思春期保健委員会について

(2) 事務局報告事項

(なし)

[協議事項]

(1) 学校と地域の連携について

中野区 教育委員会
第 1 7 回定例会
(平成 2 2 年 5 月 2 8 日)

午後 7 時 0 0 分開会

飛鳥馬委員長

皆さん、こんばんは。

ただいまから教育委員会第17回定例会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席でございます。

本日の会議録署名委員は、山田委員にお願いします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは、本日は「夜の教育委員会」ということでございますので、若干説明をさせていただきます。この「夜の教育委員会」は、さまざまな理由のために昼間の教育委員会を傍聴できにくい方々に参加していただくために機会を設けることを目的として実施しております。そこで、本日は、いつも金曜日の午前10時から開会しております教育委員会を、ただいま午後7時から、時間を変更して開会するものでございます。

本日の協議事項は、お手元に配ってございますが、学校と地域の連携に関してです。私どもで協議を進めますが、途中で傍聴者の皆さんのご意見も伺いたいと思いますので、途中で一たん休憩を入れます。その休憩の時間に、本日のテーマに関する傍聴者の発言をいただきたいと思っております。その後再開し、いただいたご意見を参考にし、引き続き協議を深めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

なお、テーマ以外に関する発言を希望される方は、すべての協議が終了した後、閉会した後に若干時間を設けますので、毎月月末に行っています傍聴者発言をしていただきますので、よろしくお願ひしたいなと思っております。

それでは、日程に入ります。

<報告事項>

飛鳥馬委員長

まず、報告事項です。

<委員長、委員、教育長報告事項>

飛鳥馬委員長

委員長、委員、教育長報告です。

最初に私のほうからですが、私は、18日火曜日、中学校PTA連合会の総会に出席しました。それから、21日は、小学校のPTA連合会がございましたので、その総会にも出席いたしました。それから、21日は、区立五中を訪問し、生徒の授業参観、それから、中学

校の校長先生方との意見交流を行いました。内容はいろいろございますが、五中さんの場合、英語とか数学を少人数で指導する工夫をしていたり、ちょうど私どもが行ったときに高校の先生が午後いらっしやいまして、中学生に出前授業というのをやっておりました。新しい試みだと思いますが、そんなことで私も参加してまいりました。

私の報告は以上です。

では、山田委員、お願いします。

山田委員

私は、5月20日ですけれども、なかの生涯学習大学の開講式がZEROホールにおいて行われましたので、出席をいたしました。本年度もたくさんの皆様方が旧ことぶき大学の生涯学習大学に入学をされましたし、今年度でことぶき大学の大学院が最後ということでございまして、その開講式でございました。

21日は、委員長報告のとおり、五中の訪問をしてまいりました。第五中学は、耐震工事の後だと思うのですけれども、各教室が非常に明るくなって非常にきれいになったという印象を持ちました。また、先ほどの委員長の報告のとおり、少人数教育など、子どもたちの習熟度別の教科に取り組んでおられたことが印象的でした。

21日の午後は、私が学校医をしています谷戸小のすこやか委員会、学校保健委員会というものがありましたので、出席をいたしました。学校保健委員会は、各学校で学校医、学校歯科医、学校薬剤師並びに校長、保健主事、もしくは養護教諭、またPTAが集まって大体年に2回から3回開く会議でありまして、今年度第1回目の委員会でございました。そのときは、PTAの皆さんの出席が12名ということで、今の子どもたちの健康状態のことを少しご説明いたしましたけれども、谷戸の子どもたちは非常に元気でした、この6月に開かれる運動会に向けて練習に取り組んでいるということを報告させていただきました。

その折に、学校歯科医の先生から一つご提言がございました。といいますのは、受動喫煙に伴う歯周病、もしくは歯肉炎の発症というのが今後問題になってくるであろうということですので、学校の保健調査票の中に家族の喫煙歴を設けてはどうだろうかというご提案がございましたので、今後その点についても教育委員会としても取り組んでいかなければいけないのではないかなと思っております。

そのほか非常に活発な意見がいろいろ出まして、無事に終了いたしました。

5月22日でございますけれども、東京の思春期保健研究会というものがございます。思春期の保健教育について勉強する会で、産婦人科医を中心として、養護の先生とかが集まっ

た100名ぐらいの会でございます。今年はお隣の杉並区において、ご承知だと思いますけれども、中学校1年生に対してのHPVワクチンの全額補助というのが区の単独事業として始まるわけでございます。そのことを今やっという健康推進課の課長さんをお呼びして、そのことの経緯をお伺いいたしました。

東京都からもこの事業に対しては多少の補助制度があるのですが、年齢要件がありまして、9歳から16歳を対象にしなければ東京都の補助はないということです。杉並は単独予算でやっという、たしか1,200万円規模の予算だったと思います。ただ、その課長さんは今、中学校1年生にワクチンを打つことを知らせなければいけないのですが、その周知の方法について悩んでおられました。HPVというのは性感染ではあるのですが、初めてのがん予防ワクチンであるということで、がん予防を進めていきたいということで、地区の医師会ともこれから連携をとっというございます。実際に始まるのは7月20日からというございました。いろいろなところで助成制度が始まってくるであろうというワクチンでありますけれども、都内で全額補助されたのは杉並区だけ。

また、大田原市においては集団接種でHPVを接種したという経過がありますが、その辺についてはまだ詳細なことはわかりません。

私からは以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、大島委員、お願いします。

大島委員

私も、飛鳥馬委員長のご報告にありましたように、5月18日の中学校のPTA連合会、それから、21日に小学校のPTA連合会、それぞれ総会に出席いたしました。

そのほか、これは教育委員会としてですけれども、5月21日に第五中学校を訪問いたしました。第五中学は私の母校という卒業した学校でございますので、つい愛着がひとしお出て、行くのはうれしいのですが、私が通っていた40年以上前と校舎が全く同じなので。私としては当時のままでうれしいのですが、いいのか悪いのかわかりませんでした。ただ、今も耐震工事のお話がありましたけれども、改修とかはしていただいているみたいで、中を見た感じは比較的きれいで、古いという感じはしなかったです。

授業も拝見させていただきまして、私の印象に残っているのは、今、ICT授業というのが各学校で始まっという、大きい画面のテレビとかパソコンをつないで、そういうものを使って授業に役立てるというのをやっというわけですが、社会科の授業のと

きにパソコンで参考資料などを映し出してというのをやっていたのですが、操作がスムーズでなく、それを映すために授業の流れがとまったなどというようなこともあって、使い方にはまだまだ工夫が要るな、使いなれていないなということで、各校の先生方の知恵などをもち寄って、スムーズに使うための研究をもう少しされたらいいのではないかなという感じました。午後は、中学校の校長先生方との話し合いがありまして、いろいろな希望も出ましたし、また、小中一貫とか小中連携とかということについて、どうもうわさがひとり歩きしているような面もあって、校長先生方も、どうなっているのだろうか、区の方針がよくわからないとかいうようなお話もありました。私たちも今検討中というところなのですけれども、その辺の今どういう状況なんだということを校長先生方にももう少しお知らせするようにしないと、先生方もお困りになるのではないかなと思ったりした次第です。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

それでは、高木委員、お願いします。

高木委員

5月14日は、所用で欠席しまして申しわけございませんでした。

翌15日、中野区立第十一中学校の同窓会定期総会と、あと、六中・十一中の合同懇親会というのに出席してきました。十一中は私の母校でございます。大島委員と同じように、校舎は当時と同じなのですが、統合でかなりきれいになっているというのと、あと、体育館に関しては建てかえが済んでいましたので、私が使っていた体育館よりもずっとよくて、冷暖房はないのですけれども、地下もあるということで、非常にいいです。

現緑野中学校の地下体育館が会場で、よかったなと思うのは、統合して別の学校にはなったのですが、緑野中学校のこの3月の卒業生を、もとの学校の六中と十一中の合同懇親会に無料で招待しまして、大体半分以上の50～60人の高校1年生が来ました。その子たちと我々の交流というのはちょっと乏しかったのですけれども、彼らは彼らで2カ月ぶりぐらいで、「元気？」とかと言っていて、そこはすごくよかったなと。まだ2期目の卒業生ですので、上がないので、そこは母体の学校として六中・十一中の同窓会の役員さんも「支援していきたい」ということで、心強いなと思った次第でございます。

5月21日の金曜日は、教育委員会として区立第五中を訪問しました。五中は、生徒数303名、全学年3クラス、計9クラスでございます。区立中12校の平均が274名なので、平均よ

りプラス1割ぐらい多いということです。1学年100名ぐらいいますと、いろいろな形で、小規模のデメリットもなく、大規模校のデメリットもないので、できれば中等教育に関してはコンスタントに3クラスから4クラスあるといいなと私は思っているところでございます。

授業は、2時間、3校時と4校時を見させていただきましたが、おおむね落ちついてよかったと思います。また、委員長からも報告がありましたように、英語と数学の少人数は20人以下で非常にきめ細かくやっていたと思います。給食は、1年C組のクラスで子どもと一緒に食べたのですけれども、グリーンピースご飯だったのですが、前にいた女の子が「グリーンピース、嫌い」と言ってよけて、前の男の子に押しつけているのを見てちょっとびっくりしました。男の子は普通に受け入れていたので、割とそういう班構成なのかなと。仲がいいのはいいのですけれども。私も実は偏食でして、小学校のころ、よく残されていたのです。教育委員として訪問する以上は歯を食いしばって食べるのですが。「残しちゃいかんよ」とは言ったのですけれども。

あと、時間がちょっと短いですね。中学生で実質15分ぐらいしかありませんので。ただ、授業時数の増加とかいろいろあって、現場では苦勞しているのがうかがえました。

校長先生との意見交換では、大島委員からも報告がありましたように、小中一貫校、連携の問題とか、あと、土曜日の授業についてご質問があって、率直なところで意見交換をしたところでございます。

当日の午後3時半からは、小学校PTA連合会の総会と懇親会に出席させていただきました。

私からは以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、教育長、お願いします。

教育長

5月20日ですが、東京都薬物乱用防止推進中野地区協議会の総会がありまして、総会の議事には出席しませんでした。その後、懇談の機会というのを設けていただいたので、出席をしました。この会は、昭和58年から設置をされている会なのですけれども、現在では、次世代育成委員さん、保護司、民生児童委員さんなど、それから、薬剤師会の先生方に大勢かかわっていただいています。医師会、歯科医師会、薬剤師会の会長さんも顧問という形で参加している会です。ここでいろいろ議論した中身では、新種の薬物が常に出

てくる、あるいは普及の方法も手をかえ品をかえということで、常に啓発していくことが大事だというような議論があったのですけれども、皆さん方の熱心な活動には本当に敬服しました。その席上で、平成21年度の中学生による薬物乱用防止ポスターの最優秀賞に、中野区北中野中学校の当時2年生、今3年生の作品が選ばれたということで、皆さんとても喜んでいただいて、励みになるということで、中学生もこういうふうに参加していただくのはとても心強いというようなお話がありました。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

各委員から報告がございました。何か質問、ご意見ございましたらお願いします。

大島委員

山田委員のお話の中で、喫煙と歯肉炎の関係ということがあって、私、ちょっと不勉強で初めて伺ったのですけれども、これは、たばこを吸うと歯肉炎になるとか、歯に影響があるとか、そういうことなのでしょうか。

山田委員

直接の影響としては、もちろん、スモーカーはご自分自身の歯周病、歯肉炎が発症してくるということは事実なのですけれども、最近のデータでは、ご家庭内で吸われている方の受動喫煙によって、その煙によっても歯肉炎が発症するということが歯科医師会の調べでわかっているのだそうです。ということになりますと、小さいお子さんがいるご家庭の中でどなたか吸っていらっしゃると、その受動喫煙のために歯肉炎、歯周病が発症するということは、やはり何らかの手を打たなければいけないのではないかとということで、その辺の調査がまだまだ不十分ではないかということのご指摘があったので、それはやはり少し検討しなければいけないのではないかなと思っています。詳しいデータは、きょうは持ち合わせがないので、また調べましてご報告させていただきます。

飛鳥馬委員長

ほかに質問ございますか。よろしいでしょうか。

質問がないようでしたら、事務局報告に移ります。

<事務局報告事項>

飛鳥馬委員長

事務局から報告事項はございますか。

事務局

ございません。

<協議事項>

飛鳥馬委員長

それでは、協議事項に移ります。

本日は、先ほど申し上げましたように、「学校と地域の連携について」の協議を進めたいと思います。

まず、このテーマを本日の協議事項とした趣旨と、テーマに関する現状等について、指導室長から説明をお願いします。

指導室長

それでは、本日のテーマでございます「学校と地域の連携について」、その趣旨、現状、課題等について、ご説明、ご報告をいたします。

まず、本テーマの趣旨でございますけれども、現状とあわせてご説明をいたします。

学校は、その制度が始まって以来、保護者や地域の方々のご協力や支えによって教育活動を進めてまいりました。特に授業の中に地域の方々や保護者の方々に入っていてご協力いただくようになりましたのは、学習指導要領の改定と関係がございます。

一つ目は、平成元年の学習指導要領の改定で新設されました生活科でございます。ここでは、低学年の子どもたちがグループごとに地域に出て行って、まち探検と称しまして地域の中を歩きながらいろいろなものを発見してくる。また、商店等に入れていただいてご説明を受けるというようなことがございました。こういうところで子どもたちの安全を守るという意味で、保護者の方や地域の方に見守っていただいたり、実際にお店の中でいろいろご説明をいただくということで授業に参画していただくようなことがございました。

二つ目は、平成10年の改定で始まりました総合的な学習の時間でございます。これは、教科の学習とは異なりまして、子どもたちの興味・関心に基づく課題設定とその問題解決学習ということでございまして、担任だけではなかなか対応し切れない部分を、その道の専門家ですとか、地域の方々ですとか、いわゆる「ゲストティーチャー」という言葉が出てきて定着してまいりましたのもこのころからだと思っておりますが、そういう方々においでいただいてお話を伺ったり、直接指導していただくという活動が始まってまいりました。このような発想から、ゲストティーチャーについては、社会科ですとか、特別活動ですとか、道徳の時間等でもお招きをして、実際に今でも活動しているということがございます。

一方で、読み聞かせ等のボランティアグループに学校に来ていただいて、図書の時間等

に読み聞かせをしていただくなどということも多くの学校でやっているところがございます。

また、ここ数年というか昨今では、「確かな学力の定着」ということで、子どもたちの個別指導ですとか、補習的な学習のところにご協力をいただくという場面も多くなってまいりました。さらに平成18年でございますけれども、教育基本法の改正がございました。ここで学校、家庭及び地域住民等の相互連携ということが条文として加わりました。13条でございますけれども、「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする」という条文でございます。この「相互の連携や協力」ということについて本日ご協議いただきまして、よりよい連携のあり方とか協力のあり方、その方向性について探っていただきたいというのが趣旨でございます。

次に、本区の現状ということで資料がございますので、それに基づいてご説明いたします。

「学校と地域の連携」ということでございますが、実は学校と地域、その方向性ということで考えますと、三つの視点が考えられると思っております。一つは、地域の方が学校に来ていただく、「地域から学校へ」という流れというか視点でございます。これにつきましては、「学習支援」「活動支援」というくくりをいたしましたけれども、多くの学校で、実際に授業に入っていただくとか、補習に参画していただくとか、活動支援という意味では、図書室の運営ですとか部活にかかわっていただくなどということも行われているところでございます。その下に各学校の代表的なものということでご紹介をいたしました。

もう一つは、右下の緑野中学校の取り組みというところがございます、逆に学校から地域に出ていく、「学校からの発信」ということでございます。これは、子どもたちが地域に出ていって、社会貢献というのでしょうか、地域に貢献するような活動ということで、例えば地域清掃などもその一つということでございます。ここに挙げました緑野中学校では、ご高齢の方のご自宅に自分たちで育てた花鉢をお贈りするというような活動をずっと続けているところでございます。

それから、ここにはございませんけれども、もう一つの視点として、地域全体で学校を支えていただくということがございます。もう既にいろいろなところでやっていただいておりますけれども、子どもたちの安心・安全の見守りというところ。直接目に見えないところではありますけれども、子どもたちを支えていただいているということがございます。

この学校と地域の連携の課題ということで、その「キーワード」というところに整理をいたしました。まず、連携ということでいろいろ言われているのだけれども、その意義は改めて何なのかということを考え直す必要があるということ。それから、やはり互恵性のある連携ということが必要で、学校はともすると自分の都合で来ていただいているようなところもありますけれども、逆に、来ていただく方にも、来てよかったと思っていただけるような交流というのでしょうか、連携ができればということがございます。また、地域ということでは、実は学校同士の連携も入ってくると思います。小学校同士、小学校と中学校、幼稚園と保育園との連携ということも実はここに入るのかなと思っています。また、教育行政のほうの視点では、そういう連携についてどういふふうな支援をしていったらいいのか、また、そういう仕組みをどんなふうにつくっていったらいいのかということも課題となっているところでございます。

私からは以上でございます。

飛鳥馬委員長

ただいま報告がございましたが、何かご意見ございますか。

山田委員

学校と地域の連携は、今、指導室長のほうからお話があったように、私も職業柄と申しますか、学校医の立場からということで、ゲストティーチャーとしていろいろなことでお招きにあずかることがあります。例えば、先ほどご報告しました谷戸小学校では、「みつめよういのち」という総合的な学習を持っております。その単元は、5年生で2単元であります。子どもたちは、その前に、3年のときから保健教科の中で、「けんこうな生活」ということを学んできます。4年になりますと、今度は保健体育に子どもたちの体の変化が出てきますので、「育ちゆく体とわたし」という単元を学んでまいります。5年になりますと、今度は「けがの防止」とか「心の健康」というのが単元で出てくるのですけれども、その延長で「みつめよういのち」というのを2単元でやっております。時期的には1月と2月ですけれども、最初には、保健所から保健師さんですとか助産師が来られまして、助産師さんなどは、おなかの大きいお母さんの疑似体験を子どもたちにさせるというようなことで、助産師さんの仕事を通じての「みつめよういのち」という題でご講演いただいていると。私は実際にその場面に遭ったことはないのですけれども、そういったことで子どもたちに命の誕生のところのプロセスを実体験の中から専門の方にお話をさせていただくということ。それで、最後ではないのですけれども、5年生の2月に私が一応単元をいただ

きまして、「みつめよういのち」ということで、1時間のこともありますし、クラスごとに1時間ずつやる場合もあります。

どんな話をしているかといいますと、私も、命の誕生ということで、産婦人科医としての命とのかかわり方について少しお話をするのですけれども、例えば母子手帳を見てきてもらって、自分の生まれたときの様子はどうだったのかということ子どもたちに尋ねたり、子どもたちから発言してもらったり、あと、子どもたち同士で少しお話をします。例えば、「私が生まれたとき、お母さんはすごい涙を出して喜んだのよ」とか、「お父さんがそばにいてすぐに抱き上げてくれたのよ」とかいう話が出たりします。

一方では、今度は、「限りあるいのち」ということで、切り口が全然違うのですが、同じ単元で話すわけではないのですが、「皆さん方の中でペットを飼っていた方がいますか。ペットが亡くなったとき、どうでしたか」というようなことのお話をさせていただくようなこともあります。そういった意味で、誕生のこと、それから、限りある命ということをお話していく。そうすると、命の始まりはということで、4年生のときに習った「育ちゆく体とわたし」の中で、「女の子の体、男の子の体は違っていたよね」ということで少し復習をさせていただいて、その中で、「女性のおなかにある卵子と男性から排精される精子とが一緒にならないと命は誕生しないんだよね」というような話をしていきます。そういった中で、「大人になるというのはどういうことなのかな?」ということの話をさせていただいて、「男の子と女の子」「大人ってどんなこと?」「親になるってどんなこと?」というお話をします。1時間ですのでそのぐらいで終わってしまいますけれども、その後で子どもたちからアンケートをとっていただくと、「私が生まれてきたときの家族の状況はこうだったと、いま一度わかった」とか、「命って限りあるということがわかった」というご意見をいただきました。

あとは、子どもたちの質問で難しいのは、「命についてどう思っていますか」と聞かれることがあるのです。私は医療の現場の中で、もちろん生に携わることもあるし、死に携わることもあるので、そういったことのお話をする場合があります。あとは、「命について考えるときってどんなときですか」と。「それはもちろん、死をみとったときに考える」という話を実体験の中でしたりいたします。あとは、私がドクターなものですから、「お医者さんになるにはどんなふうにしたらいいんですか」ということで、そうすると今度は「助産師さんになるには?」「保健師さんになるのは?」と、そういった職業のお話も少しします。あとは、「お医者さんになって一番うれしかったことは何ですか」とか「一番しんどいこと

は何ですか」とかいろいろ質問が出てまいります。

そういった中で、「命」ということを一つのキーワードでやるわけですがけれども、今後、総合的な学習が今度の改定によってどうなってくるのかなということはありません。

それから、先ほど出ました思春期保健研究会などでは、主に性教育関係の話をしたりするのでありますが、評価されるとか、受験科目にある教科ではない保健体育のこと、もちろん、命の話というのは保健体育だけではないですよ。もちろん、生活科で出てきたり、理科で出てきたり、道徳で出てきたり、それをどのようにコーディネートしていくのかというようなことまで考えなくてはいけないというか、そういった勉強をしているのですが、だれが柱になってということが難しく、日本の性教育というのはなかなか体系立っていないということをいつも思うのです。そんなことを思いながらそういった授業をさせていただいて、年に1回ですがけれども、子どもたちとそういったことで触れ合える、すごく楽しみにしている授業であります。

少し長くなりました。私からは以上です。

飛鳥馬委員長

ありがとうございました。

山田委員は、教育委員であると同時に、校医さんでもあります、プラス地域の一人ということで、地域の人として学校とというお話だったと思うのです。

ほかにはどうでしょうか。

大島委員

指導室長から、さまざまな現状での地域と学校のかかわり方、また、地域の方がやっ
ていただいている活動とかの紹介があったと思うのです。もちろん、授業だったり、クラブ
活動だったり、登下校の安全だったり、いろいろな面で地域の方に支えていただいている
と思うのですが、私が意義があるのではないかとすごく気になっているのは、比較
的高齢の方と小学生の交流というようなことなのです。といいますのは、私たちが学校を
見に行ったときに、社会科の授業とか道徳の授業などでゲストティーチャーで地域の方
に来ていただいて話をさせていただいたり、あるいは、郷土芸能の太鼓などを実際に持って
きて、太鼓をたたきながら紹介してくださったりとか、そういう授業での活動を見ること
はあるのですが、切り口として、今の子どもというのは高齢者の方と触れ合うとい
うのが少ないと思うのです。私自身は、小さいとき、うちにおじいちゃん、おばあちゃん
と一緒にいました。それで、すごく好きだったのですが、私の子どもなどは同居し

ていませんで、家におじいちゃんとかおばあちゃんがない。今の子どもというのはそういう子がすごく多いと思うのです。私などは、おじいちゃん、おばあちゃんが亡くなったというお葬式なども行っているわけですがけれども、そういうお葬式に行ったりすることも、もしかしたら今の子どもというのは余りないのかもしれない。それで、高齢者の方と身近に接していない子も多いかと思うのです。社会経験を積み、人生経験をいろいろ積んでいる方のお話は、一般的に言ってもすごく価値があると思うし、その方の特徴的な、これまでやってきた活動とか、そういうことですからすごく貴重な、また子どもたちの参考になる話、話題を持っている方もいると思うし、そういう情報をぜひ子どもたちにも渡してあげたい、そういう観点もあります。

また、逆の面で言うと、もうリタイアされた方などは比較的時間に余裕があるわけで、孫のような子どもたちと接するという事は高齢者にとっても楽しいことかもしれないし、世代間の交流というか、それができる場としても活用できるといいのではないかなど。私自身は、おじいさんとかおばあさんとかすごく好きなので、やはり子どもときかわいがってもらったというのがすごくしみついているので、大事にしたいなと思うのですね。でも、子どもたちは余り接していないと、高齢者の人をばかにするみたいな。別にそういう子どもたちばかりではないでしょうけれども、そういう風潮が出てくるのがすごく嫌だなと思ひまして、むしろ尊敬の念とか、親愛の念とかを持って当然だと思うので、もっと接することによってそういう念が出てくるのではないかと。そういう場としても学校が活用できるといいなとか日ごろ思っているのです。

ちょっと雑感みたいなことで申しわけありません。

飛鳥馬委員長

ほかにはいかがでしょうか。

山田委員

今、大島委員が言われたことですがけれども、今まさに小学校も中学校も運動会のシーズンですよね。運動会では、敬老席がありますと、年々その席は、早く行かないとなくなってしまいうぐらい人気があるのです。お年寄りの皆さん方はそういった学校での行事を楽しみにしているということはあると思います。その中で子どもたちといろいろかかわることはあるのではないかなと思います。

先ほど生涯学習大学の話をちょっとしました。生涯学習大学で生きがいくくりということをやっていくのですけれども、特に男性などは、ずっと会社で働いていて会社人間だっ

た人があるときリタイアされて地域に戻ってきたときの一つの受け皿として生涯学習大学があるのではないか思うのです。その辺のカリキュラムの中で、あとは、卒業後でもないですけれども、そういう方たちを何とか地域にという取り組みがされていると思うのですが、その辺いかがでしょうか。

副参事（生涯学習担当）

生涯学習大学は、以前「ことぶき大学」という名前だったのですけれども、ことぶき大学の卒業生というのが、今、各地域に「地域ことぶき会」というのをつくってございまして、そこからほとんどの学校にボランティアとして入っているのではないかと思います。生涯学習大学は、今おっしゃったとおり、活動したいという方の受け皿みたいなのところもありまして、ただ、自己満足だけではなくて、生涯学習大学を修了した後で何らかの形で地域に貢献していけるというような出口をしっかりとつくるということが、生涯学習分野としての課題になっております。例えば教育支援ゼミなどというゼミ活動もやっているのです。20人ぐらいのゼミをつくりまして、「世代をつなぐ学校支援」などというテーマでの活動も生涯学習大学第2学年でやっているとか、そういったような実態がございまして。まさに、今山田委員がおっしゃったような意味が生涯学習大学にあると思いますし、生涯学習大学は、自己満足で終わらないで、何かの形で地域に貢献できる、もちろん、学校だけではないのですけれども、学校にもボランティアで出かけたという高齢者が非常に多いのですね。読み聞かせをやりたいですとか、昔話をしたいだとか、昔の遊びを教えたいだとか、漢字を教えたいだとか、非常にたくさんの要望を持っている方がいらっしゃいますので、そういうところはぜひ学校との間と何らかの連携をとって、そういった方々の思いが生かせるようにしていきたいと考えてございまして。

飛鳥馬委員長

ほかはいかがでしょう。

教育長

個人的なことになってしまうかもしれないのですけれども、私は管理職になってから、地域センターの所長ですとか、当時の女性・青少年課の課長をしていたり、子ども家庭部長もしてございまして、ずうっと地域の方々の活動をつぶさに見る立場にたまたまさせていただいたわけです。先ほど指導室長から、学習指導要領の変遷によってこういうふうに変ってきたという話がありましたけれども、中野の場合は、それより以前から地域活動が非常に盛んでして、特に青少年の健全育成の活動が盛んで、学校との連携も、学校もそれなり

に求めてきたし、地域の方々も協力してくれた関係が非常にあったと思うのです。先ほど指導室長からありましたように、連携の意義というのをお互いに本当にわかって学校を開いたり、あるいは学校から地域に出ていったりしているのかということについては、もう1回考えたほうがいいかなというふうに思うことが時々あります。

私は、今こういう立場にいますと、学校の教育力というか、質を高めるとか、子どもたちが健全に育つようにという意義をお互いに感じ取ってやっていただければよりよい連携ができるのではないかなというふうに思うのですね。

例えば学校にお入りいただくというときには、質を高めるという意味では、学校の授業や活動を見ていただいてきちんと評価をしていただいて、よりよいアドバイスをいただくということですか、学校が目指すことで子どもたちの生きる力を育てるのに今年度こうしたいのだということを経験の方も理解していただいて、こういう活動だったらできますという話し合いがお互いにできるような関係ができると本当にいいなというふうに思っています。ですから、こういう自然発生的に出てきた関係ですけれども、お互いにもう一回きちんと話し合いながら連携を深めていく必要があるのではないかと思います、活動だけではなくて、話し合いの場、お互いの役割を確かめ合う場というのもつくっていく必要があるなというふうに最近感じているところです。

飛鳥馬委員長

ほかにはどうでしょうか。

高木委員

今、教育長が非常にいい示唆をされたなと思っているのです。今回こういう「学校と地域の連携」というテーマが出たということは、学校と地域の連携という問題が一つのターニングポイントというか、一つの段階を脱して次の段階に行くところなのかなと。それはやはり、区民の方と一緒に、中野の学校と地域の連携はどうあるべきかということを考えていかななくてはいけないなと強く思っております。

今、学校は先生も少ないですし、授業時数はふえていますから、地域の方がボランティアで入ってくれば非常にありがたい。私の子どもは、今、区立の某小学校の6年生と2年生なのですが、つい先週、B4のプリントがきて、「お手伝いできることはありませんか。読み聞かせ、〇〇、〇〇、〇〇」と。妻が「やっぱり、どれか丸をつけたほうがいいのか？」と。「うーん、読み聞かせぐらいはできるだろう？」と。それでもいいのですけれども、ボランティアというのは非常に難しく、学校の現場で本当に必要とされているのですが、

やっている人が、継続して、それがその人の人生にとってプラスになるようなことを考えていかないといけない。児童・生徒、あるいは幼稚園児が外に出るというのも、今までですと、外に行って体験学習をしたので、「ああ、よかった。すばらしいね。机の上の勉強じゃないよね」というところから次のステップに行かなくてはいけない。そうすると、学校と地域の垣根がだんだん下がってきて、コミュニティスクールというのも見えてくるころなのです。一方で、学校で子どもの安全確保ということだと、実はきのうも妻が先生と話をしている、帰ろうと思ったらもう正門は閉まっています、裏からひょこひょこっと出ざるを得なかったとか。

私が教育委員になる前にかかわっていた沼袋小学校で言われたのは、私が学長をしている国際短大として最初にお手伝いをしたときに、「高木さん、一步、沼小の敷地に入ったらみんな関係者ですから」と当時の校長先生に言われて、「みんなサポーターですから。できる範囲でいいですから手伝ってください」と言われて、自分が児童・生徒だったころの教育と違って、いい意味ですごく違和感を覚えたのですけれども、だんだんそれも年月が。教育委員になってもう4年ですか、各学校も同じような取り組みをやっている中で、教育委員会全体として各学校の取り組みを生かし、自主性を尊重しつつも、パッケージングとして区民の方、区民以外の方でもいいのですけれども、ともに成長するような地域と学校の連携というのを考えていかななくてはならない。

本当は、私が学長をしている国際短大でもそれを考えなくてはいけないのですけれども、やはりなかなかうまくいかないですね。短大生ぐらいになりますと今度は、ボランティアではなくてサービスマーケティングという概念があるのです。これは1980年代にアメリカの大学で始まったのですけれども、ボランティアではなくて、学生が自分の専攻を生かしてコミュニティのサービスに従事する。例えばうちですと、地元の町会のホームページづくりを手伝ってあげたり、あと、英語の専攻ですと、児童英語のコースがありますので、そこで児童英語のレッスンをします。そうすると、学生は自分のスキルも成長しますし、多少なりとも学校の先生のお手伝いになる。こういう取り組みが、高等教育だと、短大や専門学校、大学だとできるのですが、小学校、中学校だとなかなか難しいと思うのです。やはり単純にどこどこへ行って、例えば「お店の手伝いをしてよかったね」というところから、もうちょっと将来を見据えたキャリア教育とか、そういうところで、今、あれもやれ、これもやれ、キャリア教育もやれ、食育もやれで厳しいのですが、くどいようでも、そこは各学校の取り組みを尊重しつつも、教育委員会としてその方向性をもうちょっと出

していく時期なのかなと思っているところでございます。

飛鳥馬委員長

一通り委員から発言いただきました。

私も最後に一言申し上げると、今、高木委員、それから教育長が言われましたが、私も、中野の教育というのは地域との連携のもとで育てられてきたのかなと思うのですね。そういう歴史と伝統があるのだらうと思うのです。見方によってはいろいろな見方があるかもしれません。あるかもしれませんが、開かれた学校、あるいは特色ある学校、これは今全国版ですよ。どこへ行ってもそれは出てきます。その先取りをして最先端をやったのは中野ではないかと私は思うのです。それをなくしたら学校が成り立たないぐらいやっている、そういうとらえ方が一つ。今、転換、ターニングポイントという話がありましたけれども、そういうところでとらえる必要があると思うのです。それはやはり時代の流れだと思ふのです。単に学校が開かれたとか、特色ではなくて、行政においても、パブリックコメントを必ず聞くとか、ボランティアでお願いしますよとか、そういう時代になってきている。国の政治も割とそういう開かれた、いろいろな人の意見を聞きながらという面が多くなっていると思うのです。そういう流れの中での私たち中野の教育、地域との連携というふうにとらえていかないといけないと思ったのです。

ここで、最初に申し上げましたように、傍聴者の意見を伺いたいと思います。教育委員会を一たん休憩にします。休憩の時間中に傍聴者に発言をいただくということにしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは、休憩にします。

午後7時46分休憩

<定例会再開>

午後8時12分再開

飛鳥馬委員長

定例会を再開いたします。

では、各委員の方、今の傍聴者発言も含めましていろいろな意見をお伺いしましたけれども、それも含めて何かご意見、発言がありましたらお願いします。

大島委員

きょうは、皆さんにおいでいただいて本当によかったなとつくづく今思っているところです。今、発言をお聞きした方は、次世代育成委員とか、地区の委員とか、比較的積極的にいろいろな活動をしていらっしゃる方なので、特にいろいろ発言をしていただいて、日ごろやっけていただいているという、ある意味、非常にレベルの高いといえますか、意識レベルの高い方だとは思っています。それにしても、地域の方が子どもたちのためにかくも一生懸命いろいろな活動をしてくださっているというのを具体的に聞いて、本当に感謝感激ですし、頭が下がる思いです。そういうお話を聞いただけでも私はきょう来たかいがあったなと。大変勉強させていただいてありがたかったというふうに思っています。

中身については、いろいろなお話が出ましたので、私もこれからそれを整理して。教育委員会に注文されたこともたくさんあります。コーディネートのようなことをしてもらいたいという注文ですとか、学校ボランティアについてのことのご注文もありましたし、我々教育委員も地域の活動を現場で見たいという大変ごもっともなリクエストもあつたりして、いろいろなことがあると思うのです。皆さんが言われた盛りだくさんのことをちょっと整理して、先ほどのお話で、地区委員の初めの集まりでは教育委員の事務局の人たちとか来るのだけれども、その後、連携と言いながら何もしないというようなことで、本当に申しわけないと思っているのです。その辺、仕組みも含めて、地域の活動なりを支援するために我々教育委員会としてももっときちんとしたバックアップ体制をつくらないといけないなど、今つくづく反省もし、思ったところです。とりあえず、今の第一声としての感謝の言葉と感想でございます。

飛鳥馬委員長

ほかにはいかがでしょうか。

山田委員

大きな宿題をいただいたかなと思っています。

一つは、学校支援ボランティアのこと。教育委員会でも何回か話題には上っているのですが、まだその協議が十分ではないのかもしれませんが。今お話を聞きますと、各学校の中、もしくは各地区委員会の中で、いろいろな方たちがこれにかかわっていたり、生涯学習大学、昔のことぶき大学のOBの皆さん方もかかわっているということになると、教育委員会としてはその情報を少しいただきながら、それをうまく学校間につなげていくというようなコーディネーター型をしていかなければいけないのではないかなど。一時期、教育委員会というのは、言い方は悪いですが、名簿を全部いただいて、派遣するようなことも考えたこともあったのですが、それをどういうふうにするのが一番いいのかなということがわからなかったのです。それで、協議が途中になっていたのですけれども、いろいろな人材があふれているまちであろうし、実際に活動している方もいる。この方たちの能力とといいますか、資質にすがらざるを得ないという条件もありますので、早急にそういった人材の人たちの情報をいただきながら、学校間同士に広げていくようなコーディネーターを教育委員会としてはやっていくことで、行政がそこにかかわって地域を支援するというような形はぜひ必要なのではないかなと思います。あとは、一步踏み込めば、ボランティアでありますけれども、登校する途中で何か事故があった場合の保険ぐらいのことは教育委員会のほうで持たなければいけないぐらいまでの話はしていたのではないかと思います。今、非常にすばらしいご提言をいただきました。先ほどの室長のキーワードの中に出てくる「支援と仕組み」、これが私たちに課せられた大きな課題であろうと思います。それが少し整理されたかなと思うので、その方向をもう少し協議しなければいけないのではないかと思います。

飛鳥馬委員長

教育長、どうぞ。

教育長

ボランティアの人材については、各学校独自で開拓をしていたり、あるいは地域の方々がそれなりにご協力いただくということはあって、今、学校の中ではそういう活動がかなり盛んになってきているのですけれども、今、傍聴の方々のお話を聞いていて、地域というのはその学校だけのために存在しているのではなくて、面的にあれば、中学校もあれば小学校もあるし、小学校も二つか三つあるという地域がありますので、地域の中にある学校全体を通して地域としてこういう方向を目指しているのだ、こういう活動をしていきたいのだというときの学校間をつなぐという役割は、先ほど室長からありましたように、行

政の支援や仕組みがある程度必要で、山田委員が今おっしゃったコーディネーターの役をしていく必要があるのだろうというふうに思っています。

それからもう一つ、先ほど消防の防災隊の話などもありましたけれども、地域の方々が生活していく上で、いろいろ活動していくと、解決しなければいけない地域の課題が出てきたり、学校にいろいろ協力していただく中で、地域として解決していかなければいけない課題を発見するというときに、発見して解決をしていくという機能も地域の中では持たれているわけですが、そのことを解決するために子どもたちもある程度役割を果たさせていただいているという、地域に貢献しているという機能も、地域の方々というか、そのボランティアの活動の中にはあるのだなというふうに思いましたので、さっきの連携の意義とか互惠性ということを見ると、そこのところもきちんと見据えながら、そういうこともあるのだという役割観や互惠性を私たちがもっとPRをしていったり、地域に発信していく必要もあるのだろうなというのを、山田委員と傍聴者の発言を聞きながら感じたところです。

飛鳥馬委員長

次長。

教育委員会事務局次長

実は今、地域の方々からいろいろご意見をいただいたのですが、私どもで今課題となっているのは、「これからの中野の教育検討会議」の中で幾つかの課題があります。事務局として、実は今、その課題の整理とこれからの方向性について一定のたたき台をつくっているところです。これは、これから教育委員会の皆さんにもご議論いただく下地というふうに思っているのです。

今ご意見をいただいた、例えば学校と地域を結びつけるコーディネーターのお話で、これについてもいわゆる都の制度ということではなくて、中野の実態に合った制度というのを考えざるを得ないというふうに思います。今地域の方からいろいろご意見をいただいています、中野のそれぞれの学校の実態というのはそれぞれ異なっていて、コーディネーターも、いってみれば副校長先生の大きな役割になっているところもあるので、そういった仕組みだとこれからなかなか継続的な仕組みとしてはならないだろうというようなことも含めて、中野の実態に合った仕組みづくりのたたき台を今つくっていますので、もう少しお時間をいただきながら、中野の実態に合った仕組みづくりについては、また事務局としてご提案をさせていただこうかなというふうに思っておりますので、よろしくお願

ます。

飛鳥馬委員長

ほかにはいかがでしょうか。

高木委員

傍聴の方から重要なお指摘やご意見が出たなと思っております。特に教育委員会が担う学校と地域連携の役割で、支援と仕組み。物事を進める上で、「人」「物」「金」、最近はこれに「情報」が加わって四つの要素があります。本当は事務局の人が言うのでしょうけれども、言いにくいので言ってしまうかもしれませんが、お金は余りないです。区長さんと教育委員は年に2回ぐらい懇談をしますが、中野区に限らず財政は非常事態なので、「金はないから知恵を絞ってくれ」と言われております。確かに、教育というのはある程度金がかかりますが、お金がなければ教育できないわけではありません。「物」に関して、今はちょっと厳しいですね。ですから、やはりここは「人」。「人」も、人を出すということではなくて人づくりですね。それから、情報の共有というのが必要なのかなと。

あと、傍聴者のお一人が、コーディネーターの重要性というのをすごく指摘されて、私が短大協会をよくご一緒する文京学院大学短期大学の理事長・学長も、私が教育委員になる前に文京区の教育委員を1期やられていたのが縁で、文京区と文京学院大学で生涯学習のコーディネートの講座を始めたというのをお聞きしました。それは、以前資料をいただいて事務局の方にお渡ししたのですが、よく見ると、担当の方はほぼ入れかえなので、もしかするともうないのかもしれないかもしれません。そういった形でほかの区さんの状況も参考になるのかなと。本当は私ども国際短大がお手伝いしたいところなのですが、何しろ入学定員200人の小さな学校なので私どもはできないのですけれども、中野区、あるいは近隣にも大学や短期大学がありますので。今、学校も地域の一員ですから、そこら辺も巻き込んで、やはりコーディネーターの育成が一番のキーなのかなという気がします。

また、副校長先生は、やはり今、団塊の世代の方が抜けて1年で変わってしまうこともありますので、そこは地域に根が生えている方、地元の方にお手伝いいただいてやっていかないといけない。そこに対して教育委員会が適切に、上から目線ではなくて、学校と地域の関係がよりよくなるような形でサポートするというのが課題なのですが、ただ、言うは簡単、やるのは難しいので、1回出した案も、これではちょっと学校、地域が生きないということで差し戻しになっていますので、そこは今回、本当にいろいろな意見をいただきましたので、それを踏まえて進める形になるのかなと思っております。

飛鳥馬委員長

ほかにはどうでしょうか。

山田委員

これは、切り口が変わりまして、今度は教育委員の立場ということではなくて、ゲストティーチャーの立場からなのですけれども。

先ほど教育長がおっしゃった、地域というのをどのぐらいでとらえるかということですね。私が今学校医をやっている谷戸小というところは、1年生から6年生まで、雰囲気というのはわかっているので授業もやりやすいのですが、例えば、ほかの地域の中学校に招かれての性教育の講座を持っていますけれども、これで非常に気を遣います。学校は何を求めているのかということと、子どもたちはどのぐらいの知識を持っているのかがわかりませんと、単元1時間で何を伝えるべきかというところを学校と相当やりとりしできません。地域という中でも、この先生だったらゲストティーチャーで大丈夫だと言われても、それは、その学校のニーズが何なのか、何を求めているのかということを手探りでやっているわけです。アンケートをとったときに、私がやった内容が本当にそれでよかったのかなと思うときもあります。最近は何校か何年か続けてやっていますので、その点はいいのですけれども。

一方で、例えば東京都の教育委員会が文部科学省から受けている仕事で、性教育を都立高校でやりましょうというのがあって都立高校にも行くことがあるのですけれども、これはもっと大変です。高校生ぐらいになりますとかなり個人差がありますし、本当のニーズは何なのかとかなり打ち合わせをするのですけれども、実際にやるときは非常に苦労している。そういうことを、地域・学校連携ということで文部科学省はお金をつけてやっているのですけれども、そういった苦労もあって、学校のニーズをどうとらえるかというのが連携の意義ですとか互惠性と絡んでくるのかなと。学校が本当に何を求めて、年間の中でこの先生にはこれをお願いしたいということをはっきり示していただけるということが本当は大切であって、それがわからないと、幾らどのようなものでもやりますよと言ってもなかなか苦労するかなということがゲストティーチャー側からあると思うのです。そういった意味での、まさしくこのキーワードというのも大切なことではないかなと。私の実体験からでございますが、そういうことがあります。

飛鳥馬委員長

ほかに。

高木委員

今の山田委員のお話で、私も3月まで経済同友会、学校と企業・経営者の交流活動推進委員会というのに入っていて、年に何回か、高校に、主にキャリア教育の講演に行っていました。やはり山田委員がおっしゃるように、高校のニーズがきちっと伝わってくるところは話しやすいのですけれども、私が行ったところは、必ずしも都内ではないですし、ある学校では、忙しい中、ボランティアで行って、生徒さんが余り真面目に聞いてなくて会社の社長さんが怒ってしまったという事例もあります。また、現実には、私どもの短大が交流しているのは、近いところにある、江古田小学校、丸山小学校、沼袋小学校、緑野中。七中はちょっとこれから開発しよう。この間、「近くですから」と校長先生とお話をしたのですが、学校のほうでももう既にいろいろなゲストティーチャーやボランティアが入っていると、新規に入れていくというのは難しい。また、校長先生がかかわると、その先生のお考えもあって、今まであったものがなくなったり、新規に頼まれたりということがあって、なかなか難しいですよね。そこら辺をうまくコントロールしていかないと、そこら辺で次のステップにはいかないのかなというのが、私も今度お手伝いをする側の立場としては、山田委員のご意見に全く賛同です。

飛鳥馬委員長

教育長、どうぞ。

教育長

今、山田委員と高木委員からゲストティーチャーのお話がありまして、ゲストティーチャーというのは正式に学校側からもお願いをして、こういう意図でという説明をしても、それもなかなか難しいというご体験だったと思うのです。今、学校でそれぞれやっている学校支援のボランティアにいろいろ入っていただく場面では、そういうふうに改まって話し合うというのではなくて、何となく地域の関係でお願いをして、地域の方も学校のためということなのでしょうけれども、そのミスマッチというのがなかなか解消しないで、さっきの互惠性ではなくて、お互いに不満が残ってというのも多分あるのだと思うのですね。ただ、先ほど皆さん方からご紹介があった、そういう関係を乗り越えて継続的にやられているという成功事例もいっぱいあるのでしょうけれども、今お話を伺っていて、ある程度中間で取り次ぐ仕組みというのもコーディネートの機能としては必要なのかなというふうにも思いました。地域にある学校なので、そこら辺、割り切ってお話をするということはいにくいという場面もあると思うのですね。コーディネートというのは一つの形ではなく

て、組み合わせによって役割を変えていけるような、そういう可変的なコーディネートというのは非常に難しくイメージしにくいのですけれども、そういうことも中野としてはやっていかなければいけないのかなと思いました。

飛鳥馬委員長

ほかはどうでしょうか。

大島委員

地域の方と学校のかかわりでも、今の諸先生方から出たお話のように、やり方は難しい面があると思うのです。私の率直な感想としては、きょう来ていただいた次世代育成委員の方々ですとか、地区委員の方のように、学校とか地域のために、子どもたちのために一生懸命やってくださっている。それから、PTA会長の方も、PTAの立場から子どもと地域の両方のためになるようなことをやってくださっている。こういう方々がいるということ、認識不足で本当に申しわけなかったのですけれども、まじまじと知ることができて大変よかった。こういう方たちとぜひ協力しながら、そしてそういう方に「教育委員会はだめだ」というふうな不満を持たれないように、いい仕組みをつくって、せっかくの熱意を子どもたち、また地域のためにもいい方向に持っていくように仕組みづくりをこれから我々も一生懸命考えたいなど。きょうは実感としてつくづく。来ていただいて、そしていいお話を伺って本当によかったなと思いました。

飛鳥馬委員長

ほかにはよろしいですか。

では、ここで私も一言申し上げます。

今、いろいろな委員の発言、あるいは傍聴者の発言をお聞きしましたが、やはり学校と地域、あるいはゲストティーチャーとのずれがあるのですね。私もちょっと学校でやっておりまして、私の経験から言いますと、お互いに遠慮してしまう。これまで言ったら言い過ぎかな、これを頼んだらちょっと無理かなというようなところがあるのですね。それは、私が実際にやっていたときに、おやじの会なり、学校評議員会なり、開かれた学校づくり協議会なりというところで、「ぜひよろしく願います。いろいろ協力してください」と言うわけですよ。それはごあいさつみたいなもので必ず言うわけですが、一杯飲みながら聞くと、「校長はそう言うけど、何をやってほしいんだ」と言うわけです。「お願いしたい」と。「何をお願いしたいんだ。それがわからないんだ」というふうに言われるわけです。そこで私は、「あっ、そうなのか。言っているのか」と初めて気がついたわ

けです。こういうことをやってほしいんだということですね。校長の立場とすると、そういうことを聞いたことは非常にうれしいことで安心して頼めるようになる。

地域の方は、またその逆が言えるのだらうと思うのです。逆に、地域の方、あるいはゲストティーチャーが「こういうことをやりたいんだよ」と言ってくださる。そこで校長さんが「それはちょっと無理だね」とか言える雰囲気があると一番いいのですね。「それはぜひお願いします」と。その辺のずれのところ、非常に細かいところですが、組織が必要だとか何かもあります、それとそういう温度差のところの調整が必要だと思うのですね。

もう一点は、こういうことをコーディネーター、次世代育成委員さんの活躍に期待してもいいのだらうと思うのですけれども、要するに、中野でもおやじの会がありますよね。私もつくったのです。行く学校ごとにつくったのです。つくったときは非常に熱があって一生懸命やるのです。ですけれども、だんだんだんだん下火になっていってしまう。おやじの会の役員をやる人も、一緒にやる人も全然かわらないのです。もう子どもは卒業してしまったのに10年もやっているわけです。終わるときは、それがぱたっと火が消えるわけです。典型的に言えばそういうことなのですね。そこでコーディネーターがどのくらいかわれるかが問題なわけですが、すべてのものがそういうものもあるのだらうと思うのですね。つないでいくという、そのところの難しさですね。組織的に何かを考えていくことと、お互いに気を遣いながら遠慮なく話し合える雰囲気といいますか、日ごろの交流というのでしょうか、そういうことが非常に大事なかなというふうに気がついたというか、思ったということは1点あります。

あと、地域との連携で、学校で「何でもいい」と言えば何でもいいのですが、「何でもいい」などとここでちょっと不謹慎な発言をするとまた問題になるかもしれませんが、要するに、私は地域とやりたいなというとき、例えば運動会におばあちゃんとやろうよと言うのです。地域のおばあちゃんを呼んでくる。「うちのおばあちゃん、75歳よ」「いいじゃない。来てよ」と。さっき言ったように、今までも生徒会が招待して運動会を見てもらって、花を贈ったり、鉢花を贈ったりしていたのですが、それは見学なわけです。「そうじゃない。おばあちゃん、運動会をやるんだよ」ということです。それは何かというと、おばあちゃんが運動会で花笠音頭を子どもと踊るのです。それは何かというと、地域へ入っていろいろ聞いたときに、町会長さんが「地域の会館で踊りの会があるんだよ。おばあちゃんが20人ぐらい来て毎月練習しているんだよ。だけど、発表する場がないんだよね」と。「じゃあ、うちの運動会でやろうよ」ということになったわけです。そのときに、ただ運動会で発表

したのではだめなわけです。子どもがやっている体育の時間に一緒におばあちゃんが体育館に来るのです。それで、子どもと練習するのです。話をしながら。それで当日初めてできるのです。そういうこととか。

私、大げさなことが好きなものだから、「スクールギャラリーをつくろうね」と言って会議室に全部絵を飾る。ギャラリーだからすごいのかなと思うと、そんなことはないです。おじいちゃんとかおばあちゃんの絵手紙とか、切り絵、張り絵とか、そういうのでいいのです。「〇〇二人展」とか大げさにやったこともあります。あるいは、菊をつくる名人のおじいちゃんがいると、「みんなで菊をつくろうね」とおじいちゃんを呼んできて菊を教わる。そういうことを仕掛けてやったのです。

地域とつながって子どもたちが高齢者からいろいろなことを教わると大島委員が言いました。あるいは、地域のその人たちも元気になる、喜ぶ、子どもと顔見知りになる、道で会ってもあいさつをしてくれるとか。ただ、交通安全で、信号が青だから渡れというだけではなくて、もうちょっと濃い人間関係ができていくと本当に地域につながっていくのかなという気がしました。そういうことをやっている学校はたくさんあると思うのです。私が言うのも申しわけないのですけれども、やっている学校はたくさんあるはずです。ですから、そういうことで工夫していただければありがたいなと。もしそうだとすれば、教育委員会でそういう情報を発信してもいいのかもしれませんが。「こういうことができますよ」というようなこと。

もう1点、非常に大事なことで、高木委員のほうからの教育のこと、地域との連携のことのお話の中で、「人」「物」「金」というと、「お金がないので」という話がありましたが、確かにそのとおりで。そこで誤解していただきたくないなと思うのは、本当に金がないし、なかなか出せないのはそのとおりなのですけれども、だから、地域の方にボランティアでやってもらんだという発想だとなかなかうまくいかないのですね。そうだろうと私は思うのです。そういう面もあるかもしれません。さっきの保険のお金ぐらいは払えると思いますので、そういうものでちゃんと補償してあげて、あとは一緒にやれるという、そういうものをつくっていかないと地域とのつながりが出てこない。では、お金があつて、人があれば、ボランティアが要らなければ、地域とつながるのかということ、そこはまたちょっと違うのだと思うのですね。ボランティア的に一生懸命やったださってつながるところに意味があるのだろうと。お金ではないということもあるのだろうと。両面あるかもしれません。そういうところも押さえながらやる必要があるのかなと思いました。

ちょっと長い話になって申しわけございません。

それでは、協議はこれで終了したいと思います。

本日のテーマの「学校と地域の連携について」は、私たち教育委員会としましても重要なテーマでありますので、引き続きさまざまな機会を通じて検討したいというふうに思っております。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

ここで傍聴者の皆さんに今後の教育委員会の開会予定についてお知らせします。来週6月4日金曜日は、北中野中学校訪問と生徒との対話集会がありますので、教育委員会の会議はございません。6月11日金曜日と6月18日金曜日は午前10時からいつもどおりこの場で教育委員会の会議を開会いたします。6月25日金曜日は、教育委員会の会議はありません。したがって、6月の教育委員会の会議は、6月11日と18日の2回でございます。

これをもちまして、教育委員会第17回定例会を閉じます。

午後8時42分閉会